



かがやき自立活動通信

平成27年1月9日
草加かがやき特別支援学校 自立活動専任

平成27年のスタートです。子どもたちが生き生きとした生活を送れるために、周囲の大人たちが連携を図って行きましょう。また学習をして行きましょう。



特集 「先輩ママの話聞く会」報告

12月16日(火)お二人の先輩ママをお招きし、子育ての体験談を伺う学習会を行いました。参加者は50名でした。参加者にはアンケートをとらせていただきましたが、その中で「この話がよかった」というもののベスト3をご紹介します。

ベスト1 「子どもの自立に関すること」

現場実習の時に自主通学をやらせたら、やり遂げてくれて、子どもはとても自信のある顔をしていた。「親が思っている以上に、子どもは成長している」と感じた。親が勝手にできないと思い込み、親の方が放せなかったと反省。いろいろなことを体験させてきたが、それも自立につながって行くことがあった。

現在は、子どもが独り立ちをするのに必要なことを考えていかななくてはならないと感じている。勉強したり見学に行ったり、行政に声を上げていかないといけない。「いつ我が子から身を引くか、いつ手放すか」が課題です。



いろいろな人に助けてもらって子育てしてきました…と胡中さん

ベスト2 「進路について」

初めての現場実習(高2)で「1日目の帰ってきたときの様子が子どもの正直な気持ちである。それで判断すべき」と言われた。「ここが合っているな」と思っていた施設だったのに、子どもの様子はあまりよくなかった。帰宅後、大泣きをされた。実習に行っても本当のことがわかった。体験させずに決めてしまうのはまずいと感じた。「この子がこの子らしく生きていける場所」に決定した。

入学式でもらったプリントの中に「進路アンケート」が入っていた。聞かれていることばの意味がわからなかった。小学部低学年の間に、通所、入所、グループホームなどいろいろ見学をした。同じバス停の先輩ママからも情報をもらい、助けてもらった。



卒業した後の方が親同士のつながりが大切です…と天野さん

ベスト3 「学校と保護者との連携」

学校で何気なく先生にグチをこぼしたが、先生の方が学年会や学部会できちんと話し合っ
て対応を考えてくれた。グチではなく、要望があればきちんとした形で言わなくては失礼だと
感じた。また必要なことはきちんと伝えていかないと、現状で満足していると思われてしま
う。

校長先生が「校長先生へのポスト」を設置してくれたので、それも利用させてもらい、校長
先生には相談に乗ってもらった。

* 具体例 *

グチ→うちの子はズボンの裾から股に手を入れてしまう。何とかならないかな？

男の子がトイレでお尻を出しておしっこするのも何か嫌よね？

要望→ズボンの裾から股へ手を入れないように、ハーフパンツではなく、クォーターパン
ツにしてほしい。

体操着のズボンに前立てをつけたタイプのものを作って欲しい。

参加して下さった保護者のアンケートより

- ・ 先生とやりとりをしっかりとしようと思った。
- ・ 親は「自分が育てなければいけない」という考えを変えて、頼れる場所・友人・行政を使い、
親から離れた環境の場の刺激を与えたり体験させることが大事だと思った。
- ・ たった1回でも暴れてしまうと語り継がれてしまったり、またやってしまうかもしれないという
不安がある。
- ・ 問題行動でも必ず原因がある、ということに共感できた。
- ・ 迷っていたことの方向性が見えた。
- ・ 日々、特別に努力して、子どもが太らずにいられる人の話が聞きたい。
- ・ アスペや広汎性・ADHDなどのお子さんを持つ先輩お母さんの話を聞いたことがないので、
ぜひやって欲しいです！！
- ・ 本人の気持ちを本人に気付いてもらうためのやり取りを学びたい。例えば、大人が適切な
ことばや道具を使うことによって「今これは嫌だってことなんだな。嫌だって言っていないんだ
な。嫌だって出してみよう」とか、「やりたいな～」をやるやらないではなく、「やってみようか
な～」ぐらいでもいいんだなという気持ちに気付くことができれば、表現できるかなと思うの
で。
- ・ 今回のような先輩方の話は何度聞いてもためになるので、年1回ではなくたくさんやってほ
しい。



自立ノート

お二人の先輩ママ、貴重な体験談をありがとうございました。

胡中さんのお話の中で「ボランティアの大学生と遊んで帰ってきた時に、子ども
が今まで見たこともないような笑顔をしていた。『私、こんなに子どもに楽しくやら
せていなかった』『他の人に任せて楽しくできるのなら』と気持ちを切り替えた。いろいろなもの
を使い分けて、親子べつたりの生活をやめるようにした」というのがありました。こういうことを
認められるお母様というのもすごいと思いました。

お二人の先輩ママには、今までもたくさんのお話を学ばせていただきました。若いママたちの
助けにもなりたいという気持ちも強く持たれていて、頭が下がる思いでいっぱいです。

私には何ができる？考えながら今年1年を過ごしたいです。